

令和5年度 大田区基本構想審議会
第2回専門部会（子ども・福祉）議事録

| | | | | | | | | | | |
|--------|--|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--|
| 日時 | 令和5年8月31日(木)17時から19時 | | | | | | | | | |
| 場所 | 区役所本庁舎2階 201・202会議室 | | | | | | | | | |
| 委員 | <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">○ 石渡和実</td> <td style="text-align: center;">○ 澁谷昌史</td> <td style="text-align: center;">○ 西脇祐司</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○ 中島寿美</td> <td style="text-align: center;">○ 大井公美子</td> <td style="text-align: center;">○ 押見隆太</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○ 岡元由美</td> <td style="text-align: center;">○ 庄嶋孝広</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※○:出席、欠:欠席</p> | ○ 石渡和実 | ○ 澁谷昌史 | ○ 西脇祐司 | ○ 中島寿美 | ○ 大井公美子 | ○ 押見隆太 | ○ 岡元由美 | ○ 庄嶋孝広 | |
| ○ 石渡和実 | ○ 澁谷昌史 | ○ 西脇祐司 | | | | | | | | |
| ○ 中島寿美 | ○ 大井公美子 | ○ 押見隆太 | | | | | | | | |
| ○ 岡元由美 | ○ 庄嶋孝広 | | | | | | | | | |
| 傍聴者 | 4名 | | | | | | | | | |

| | |
|------|---|
| 議事日程 | 開会 1 部会長挨拶 2 議題 (1)第2回審議会に向けた流れ (2)第1回会議の振り返り等 (3)アンケート結果等の区民意見の報告(速報) (4)分野別の目指すべき姿の取りまとめ 3 今後の予定 閉会 |
| 資料 | 資料1 事務局資料① 資料2 事務局資料② 資料3 事務局資料③ 資料4 今後の予定 参考資料1 大田区データブック 参考資料2 大田区基本構想(平成20年10月) 参考資料3 アンケートの自由記述欄の詳細 |

1 開会・部会長挨拶

◎齋藤部長

それでは定刻となりましたので、ただいまから大田区基本構想審議会専門部会「子ども・福祉」第2回の部会を開催させていただきます。一部到着なさっていない委員さんがいらっしゃいますけれども、間もなくお見えになるかと思えます。

皆様、本日はお忙しい中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日も事務局として、私、企画経営部長の齋藤が全体進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、この会場でご参加いただく委員の皆様と、岡元委員がオンラインでご参加されますので、ハイブリッド形式での開催となります。

それから前回も申し上げましたが、ペーパーレスの観点から事務局資料等は机上に配付せず、モニターないしお手元のタブレットをご確認いただくということでよろしくお願いいたします。操作等分からないことがございましたら、お手を挙げていただいて近くの係員に教えていただければと思います。

それから、本日の会議の様子を撮影・録音させていただき、後日議事録を公開するとともに、大田区の公式YouTubeチャンネルにて動画として公開させていただきますので予めご了承ください。

それでは、開会にあたり、石渡部会長からご挨拶をいただきたく存じます。石渡部会長よろしくお願いいたします。

◎石渡部会長

石渡です。もう9月になろうとしているのに毎日暑い日が続きますが、そのような中お集まりいただきありがとうございます。前回の専門部会では、大田区の強みというのをたくさん気づくことができました。ぜひそれを20年後に活かすために、今日はまた議論よろしくお願いいたします。

◎齋藤部長

ありがとうございました。それでは以後の進行を石渡部会長よろしくお願いいたします。

2 議題(1)－(4)

◎石渡部会長

それでは議事を進めさせていただきます。まず専門部会の成立について事務局から報告をお願いいたします。

◎野村課長

本日の専門部会の成立につきまして報告いたします。専門部会の成立要件につきましては、大田区基本構想審議会条例施行規則第3条第5項において「部会は、部員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない」と規定されております。

本日の出席状況でございますが、ただいま中島委員も到着されましたので、委員8名のうち8名が出席しており、定足数を満たしているため本会議が成立していることを報告いたします。

◎石渡部会長

ありがとうございました。では専門部会が成立しているということでしたので、議題に入らせていただきます。

ではまず、本日の議題に関する資料についての説明を事務局からお願いいたします。

◎野村課長

企画調整担当課長野村です。それでは事務局資料について説明させていただきます。

まず、第2回審議会に向けた流れについて説明いたしますので、資料1の3ページをご覧ください。今回の専門部会では、ただいま投影されております資料の赤枠で囲んであります部分に記載がありますとおり、分野別のめざすべき姿について取りまとめていただき、その結果を第2回審議会に上げていく形を予定しております。この分野別のめざすべき姿というのは、基本構想のうち、主に基本目標に該当する部分になりますが、本専門部会の検討結果をそのまま第2回審議会でも素案のような形で示すことは予定しておりません。

と言いますのも、基本目標の柱の数や最終的な案を固めるにあたっては、他の2つの専門部会の検討結果等を考慮した上で、全体のバランスを見ながら固めていく必要があります。また、各種ワークショップを始めとする区民の皆様からの意見募集も現時点で全て出揃っているわけではありませんので、第2回審議会でも提示する基本目標のたたき台の案につきましては、資料に青い矢印で記載があるように、本専門部会の検討結果、他の2つの専門部会の検討結果、それから区民意見の結果を全て踏まえた形で、事務局で作成いたします。ですので第2回審議会では、後ほど資料3でお示しするフォーマットに落とし込んだ形の各専門部会の検討結果と事務局作成のたたき台の2つが提示され、各専門部会の検討結果を踏まえつつ、基本目標の案を固めるための議論を行うという形を予定しております。

本日は、子ども・福祉部会の分野別のめざすべき姿を取りまとめることを目的として議論・検討を行っていただくこととなりますので、資料2および資料3で検討の前提となる各種資料やデータについて説明いたします。

それでは資料2をご覧ください。資料2では、第1回会議の振り返りやアンケート結果等についてまとめておりますので、まず第1回会議の振り返りについて説明いたします。

第1回会議後に出された追加意見につきまして、資料3～8ページでまとめております。3ページでは澁谷委員の追加意見を記載しておりますが、子育て関連では、「言ったことに耳を傾けてくれる」というこどもたちからの評価が今以上に多くなるよう、こども主体の場・空間を増やしていくことも重要」といったご意見や、福祉関連では「社会福祉資源の計画的整備、社会福祉協議会の取組により地道に地域づくりが着実に進められてきたことは、安全・安心なまちづくりにとって重要なステップ」といったご意見をいただいております。

4ページ、5ページでは、岡元委員の追加意見を記載しておりますが、「子ども、現役世代、高齢者ともに、暮らして良かった、ずっと暮らし続けていきたいと感じる区民満足度の向上が大事」と

いったご意見や、保育や学校現場での問題を踏まえた上で「教育委員会による人員配置だけではなく、PTAや町会自治会など地域全体で課題を共有し、早急に解決に結びつけなければならない」といった意見、また続く5ページでは、高齢者がずっと住み続けられるための住宅の確保という観点から、「空き家活用を含む高齢者のシェアハウスなど、区が責任を持って住宅の確保に取り組まなければならない」といったご意見をいただいております。

6～12ページでは、庄嶋委員の追加意見を記載しております。いくつかピックアップして紹介いたしますと、まず9ページでは、家族単位が大家族⇒核家族⇒ひとり親・未婚と小さくなっていく中、多くの第三者の大人が地域で子どもを応援する、家族だからこそその難しい問題を行政のしくみや地域の活動が支えている状態をつくる、といった大田区の将来像に関するご意見をいただいております、また11ページでは「PTAやおやじの会、少年スポーツチームなどでできている、保護者コミュニティを核に、将来の地域社会イメージを共有し、構築していく」とともに、「未婚の人、子どもを持たない人たちが、孤立しない地域社会とする必要がある」といったご意見などをいただいております。

資料の14～21ページでは、第1回会議での主なご意見を分野ごとにまとめております。新しい内容を記載しているものではございませんので、各発言の詳細な説明は省略させていただきますが、意見交換の際などに適宜ご活用いただければと思います。

続きまして第1回会議で委員の方からデータブックに記載のない追加データ等に関するご発言がございましたので、資料23ページ以降で記載しております。24ページでは、昨年度区が実施した転出者向けアンケートでして、近隣地帯への転出者を対象に転出先や転出理由などを調査しております。第1回専門部会における子育て世帯の転出理由を考察できるデータの有無についてのご発言を受け、今回関連データとしてお示しさせていただきました。

25ページをご覧ください。こちらは転出者の転出先をまとめたグラフでして、上位5つは横浜市、川崎市、千葉県、埼玉県、品川区となっております。

次に26ページでは、転出先の居住地を選んだ理由、つまりは転出理由を聞いておりますが、住宅面積・間取り、住宅価格、通勤の利便性の3つが突出して多い結果となっております。

続いて27ページでは、先ほどの転出先の結果のうち、子どもが1人以上かつ20代～40代、つまりは子育て世帯である可能性が高い世帯に絞ったクロス集計の結果をまとめております。1位は全体と同じく横浜市ですが、上位5つの中には、先ほどにはなかった23区以外の都内自治体や、横浜、川崎を除く神奈川県等が入ってきております。

続いて28ページでは、同じく子どもが1人以上、かつ20代～40代の世帯に絞った転出理由をまとめております。住宅面積や住宅価格などが突出しており、親族等の住まいとの距離、通勤の利便性、買い物の利便性、公園を含む周辺の自然環境、治安の良さ、子の進学、まちのブランド・イメージ等が続きます。これらの理由全てに対応していくことは難しいかとは思いますが、今後、子育て世帯にも選ばれる大田区を実現していくためには、引き続き分析を進めるとともに、ターゲットを絞って施策を展開していく必要があるかと思っております。

なお、本アンケート全体の回答者数は1,547人ですが、子育て世帯に関する結果はクロス集計のため、回答者数153人と少なくなっている点にはご留意ください。

続いて30ページをご覧ください。こちらはまちづくり・防災の専門部会で「大田区データブック

の人口分野に記載のある0～4歳児の転出数の結果について、ここ数年同様の結果が続いているのか」といったご意見があり作成した資料です。資料に記載のとおり、直近5年間は23区で最も転出数が多い状態が続いており、子ども・福祉部会にも関連の強いデータですので、追加データとして掲載いたしました。ただ、転出超過数は最も多い結果となっておりますが、こちらは人口の大小にも影響される部分でもあり、例えば各自治体の0～4歳児の総人口数と転出超過数の割合で見た場合、大田区は10番目に割合が多いという結果もありますので、資料には記載してごさいませんが、一概に23区で最も子育て世帯から敬遠されているわけではないことは補足させていただきます。

続いて32ページをご覧ください。こちらは第1回専門部会でも発言のあった、区の実践である「おおたの未来づくり」に関する資料です。教育分野の今後に関わる重要な取組でもございまして概要について説明いたします。

大田区では変化が激しい社会の中で、こどもたちが未来をつくるために必要な創造的な資質・能力の育成を目指し、令和7年度から独自教科「おおたの未来づくり」を新設する準備をしております。「おおたの未来づくり」は小学校5・6年生を対象とし、児童が実社会で活躍する方々とともに、地域の特色を活かして研究と創造を発展的に行き来するSTEAM教育等の教科等、横断的な学びを通してものづくりや地域の創生にチャレンジするものです。

具体的な例としましては、資料33ページに記載のような授業の実施が考えられます。

1つ目の例として「新しい清涼飲料水の開発」に取り組むものです。企業が児童に新商品の開発という課題を提示し、児童は企業の特長・ターゲットとする客層等を調べ、商品のアイデアを創出します。さらに児童は、商品のアイデアを基に、パッケージデザインや商品名を試行錯誤して創出し、試作品をつくり、企業関係者にプレゼンテーションを行う。そして企業は児童にフィードバックを行うといったものです。

2つ目の例として「町工場の魅力をCMで発信」するものです。まず児童はものづくりのまち大田区の特長を学んだ上で、町工場の方に取材を行います。次に、取材で得た情報を整理し、CMの構成を考え、動画を編集した上で、町工場の方プレゼンテーションを行う。それに対して町工場側はフィードバックを行うとともにHP等にCMを掲載し、地域共生の取組の一助とする、といったものです。

このように地域の特性を生かし、企業や団体と連携してものや取組を創出する学習を、令和7年度に本格導入予定です。以上が「おおたの未来づくり」に関する説明ですが、1点留意事項としましては、本日はあくまで基本構想の将来像の議論の場でありまして、個別事業であります「おおたの未来づくり」の細かいよしあしに時間を割いてしまうような、そういった細部に終始する形での議論は避けていただけますと幸いです。

続いてアンケート結果について説明いたします。資料35ページをご覧ください。今回は自由記述も含んだ結果として、7月31日までに集計した計15,720件のご意見を対象に分析を行います。

36ページをご覧ください。こちらは前回もお示ししました高校生以上を大人として、小中学生以下をこどもとして、それぞれの結果を示したアンケート結果ですが、この示し方では、上段の大人のアンケートのうち8割以上が小中学生の保護者の意見という偏った結果になっていました。そ

ここで今回からは、資料37ページのように、高校生以上については、小中学校を通じて意見を回収していない、いわゆる一般の大人の意見と、小中学校を通じて意見を回収した小中学生の児童・生徒を持つ保護者の意見に分けて示す形としました。

上段が保護者を含む一般、下段が保護者の回答となっておりますが、右側の将来のまちの姿につきましても、1位「子どもの安全が守られているまち」、2位「子育てしやすいまち」はともに同じ結果となっております。

以降38～49ページでは、選択式アンケートの結果の詳細を示しておりますが、詳細の説明は省略させていただきます。

続いて50ページ以降で、自由記述の結果について説明いたします。最初に、結果全体のイメージを掴みやすいよう、資料左側で自由記述における単語の出現頻度が高いものを大きな文字で表記するワードクラウドという手法で示しております。また、右側では頻度の高い名詞を年代別に整理しております。

50ページが大人・一般の結果でして、「子育て」、「子ども」といった単語が特に大きくなっております。右側の年代別では、30代、40代、50代を中心に、「子ども」という単語が多くなっております。

続いて51ページをご覧ください。こちらは保護者の自由記述意見ですが、ワードクラウドでは一般と同じく「子ども」、「子育て」などが多くなっていますが、保護者ということで、一般よりも「学校」等のワードが多くなっております。右側の年代別では、全ての年代で「子ども」が1位となっております。

続いて52ページでは小中学生の意見を示しておりますが、ワードクラウドでは「公園」「増やす」というワードが非常に多くなっております。また、右側の学年別では、小5から中3まで全学年で「公園」というワードが最も多くなっております。

ただしこのワードクラウドにつきましても、「公園」「増やす」が多くなっておりますが、この2つワードは必ずしもこの2つのみで使われているわけではないため、単純に「公園の数を増やしてほしい」という意見が多いとは限らない点にはご注意ください。例えば区内の公園の総数ではなく、ボール遊びなど「〇〇ができる公園」を増やしてほしい、こういった意見もあれば「区内のイベントや祭りを増やしてほしい」、こういった意見でも「増やす」というワードは多くなります。こちらのワードクラウドでは、単語の出現頻度は分かっても、文脈を含めた詳細な意図は分かりませんので、主な意見につきましても、53ページ以降の自由記述欄のまとめで説明いたします。

ここではアンケートの自由記述についてデータブックの分野ごとに分類し、比較的同様の意見が多いものを主な意見として属性別に記載しております。ただしこのアンケート結果は、あくまで7月31日時点の暫定の結果であることや、分野ごとにバランスを踏まえ整理した関係で、必ずしも多いとは言えない意見もまじっている点にはご注意ください。

詳細につきましても54ページをご覧ください。こちらは「子育て」に関する意見ですが、大人(一般)では「子育てと仕事の両立が非常に大変に感じる」という意見や、保護者では「保育園と同様に学童の充実を図ってほしい」という意見や、「子育て世代に選ばれるまちになってほしい」という意見、小中学生では「少子化が叫ばれる中、子どもたちの声をもっと大切にしてほしい」という意見など、子育てに関する様々な問題が解消された未来を望む意見や、こどもたちからの、自分た

ちの意見を聞いてほしいといった意見がございました。

続いて55ページの「教育」では、大人(一般)では「区内の公立小学校の施設の老朽化が目立つ」という意見や、保護者では「区から小学生に貸与されているタブレットの重量が重く、小学生が登下校で疲弊している」という意見、小中学生では「学校の教科書は全て廃止され、パソコンが教科書の代わりになってほしい」など、施設やデジタルツールに関する意見がありました。

続いて56ページの「高齢者」では、大人(一般)では、「子どもと高齢者が触れ合えるまちになると良い。地域の高齢者の方が子どもを見守ってくれるようなまちが理想的」という意見や、保護者では「高齢者と乳幼児子育て世代や、高齢者と若者が地域で交わる場ができたらい」という意見、小中学生では「高齢者でも安心して暮らせるまち」と、高齢者と他世代の交流に関する意見等がありました。

続いて57ページの「福祉」では、大人(一般)では、「高齢者、障がい者、子ども、社会的に弱い立場にいる人に優しいまちにしていきたいし、なってほしい」という意見や、保護者では「車いすの方でも移動しやすいようバリアフリーを進めてほしい」という意見、小中学生では「障がい者が安心して暮らせるまち」など、バリアフリーに関する意見や社会的に弱い立場の人への優しさ、安心に関する意見などがございました。

続いて58ページの「健康・スポーツ」では、大人(一般)では「みどりが多く、サッカーやバスケットボールができる運動広場をつくってほしい」という意見や、保護者では「健康寿命が延びるように、若者も高齢者も共にトレーニングを気軽にできるまちが理想である」という意見、小中学生では「スポーツができる場所を増やしてほしい」「もっと医療に力を入れてほしい」など、街中で気軽に運動ができる環境を望む意見などがありました。

59ページの「人口」では、いずれの属性でも少子化対策に取り組んでほしいという声が多くありましたので、このあたりに希望が持てるような将来像を目指していくことも重要かと思えます。

60ページの「自治体経営」では、大人(一般)からは土日にも開庁してほしいといった意見があり、また保護者や小中学生からは、学校や公共施設の修繕・改修等に関する意見などがありました。

61ページでは「その他」として、羽田空港やSDGs、平等や平和に関する意見などを記載しております。

アンケートに関する説明は以上でして、資料2では、第1回会議の振り返りや追加データ、アンケート結果の速報といった意見交換のための基礎情報等について説明させていただきましたので、続いて資料3では、具体的にどのような形で専門部会の意見を取りまとめていくかについて説明させていただきます。資料3の3ページをご覧ください。

資料3の3～5ページにかけましては、本部会で取りまとめていただく、分野ごとのめざすべき姿のフォーマットを示しております。この後の意見交換では、まず、この分野にめざすべきまちの姿を落とし込んでいくことを念頭に、ご意見をいただきたいと考えております。また、分野ごとにめざすべき姿の意見交換を行っていただいた後に、資料6ページに記載のある「基本目標の構成に関するご意見」をいただきたいと考えております。

最後に「全体に関する補足意見」とありますが、専門部会において完全にはまとまらなかったご意見や、本専門部会の検討から派生する形で生じた他の専門部会等に関する意見、それから冒

頭で示させていただきました、今後事務局が審議会2回目に向けて構想のたたき台を作成する際に、ぜひこういう点を意識してほしいといった取りまとめに関する意見などを広く補足意見としてまとめることを想定しております。この補足意見につきましては、明確に補足意見として議題を設けているわけではありませんので、意見交換の際に、随時補足意見としてご発言いただいても構いませんし、仮にそうでなくても、事務局が事後に発言内容をまとめる際に、補足意見として整理すべき発言と判断した場合は、適宜補足意見として記載させていただく予定です。

以上説明しましたとおり、今回の専門部会では大きく分けて3つの要素、1つ目は、資料3～5ページまでの分野ごとのめざすべき姿、2つ目は基本目標の構成に関するご意見、3つ目は全体に関する補足意見。この3つについて、部会としての意見を取りまとめさせていただき、3部会共通のフォーマットとして、第2回審議会に意見を上げてまいります。

なお、本日の意見交換中に一言一句フォーマットに落とし込む文言を固めていただく必要はなく、各委員のご発言を踏まえながら、おおむね全体の方向と合っているものを、会議後に事務局が部会長とも相談しながら、フォーマットに落とし込む形でまとめさせていただきます。その内容を会議後に書面等でご確認いただき、了承を得たものを第2回審議会に正式に提示させていただく予定です。

資料3～6ページまでのフォーマットだけでは、実際に落とし込む記載のレベル感が分かりにくいかと思いますので、7ページ以降で例をお示しいたします。

7ページでは、子ども・福祉分野の例として、これまでの専門部会でのご意見や、区民の皆様からのアンケート、データブックの情報などをもとに、めざすべき姿としてはこういう方向性のまちが考えられるのではないかと事務局の意見を記載させていただいております。まちの姿の最後に赤い丸がついているものは、主に部会で出された意見をもとにしたまちの姿、青い四角がついているものは、主に基本構想策定のためのアンケートでいただいたご意見をもとにしたまちの姿、緑の菱形は主にデータブックのデータをもとにしたまちの姿となっております。このような形で7～11ページまでにわたって、分野ごとにまちの姿の例を示しておりますが、ここでお示しさせていただいた姿は案ではなくてあくまで意見交換の際に必要なに応じて参考にしていただくための例示ですので、各詳細についての説明は省略させていただきます。

また資料13ページでは、基本目標の構成に関する事務局の意見を記載しておりますが、このページについては、本日の意見交換の最後のパートの際に改めて説明いたします。

本日の意見交換では、まず前半パートでは「子育て／教育」の2つの分野について、後半パートでは残りの分野である「高齢者／福祉／健康・スポーツ／人口・自治体経営・その他」について、それぞれ事務局が示した例を参考にしつつ、基本構想でめざすべき分野別のまちの姿についてご意見をいただきたいと思います。「○○なまち」という形でのご意見が難しい場合は、この分野でのまちの姿を考える場合はこういう視点が特に重要だといったご意見や、こういうキーワードが重要だといったご意見でも構いません。もちろん重要となる施策等でも構いませんが、今回は取りまとめの会でもございますので、その施策の結果としてどのような将来像を掲げるべきか、そして2040年という目標年次を前提とした場合に、どのようなまちであれば、区民にとって魅力的に感じられるか、共感を得られるかといった点も意識しながら、ご意見をいただけますと幸いです。

事務局からの説明は以上です。

◎石渡部会長

ご説明ありがとうございました。一気に今日の議論すべきことを説明していただきましたが、まずは2040年頃に大田区がめざす姿の1つ目として子育て・教育、この2つが関わりもありますので、子育て・教育について皆様からのご意見をいただいて、これを35分くらい予定しております。後半で残っている高齢者、福祉、健康・スポーツ、それから自治体経営、その他も入りますが、そのあたりについてめざすべき姿のご意見をいただいて、というところで、ここに40分くらい時間が取れたらと思っています。それぞれの委員のお立場からお考えになっていらっしゃる思いを率直に語っていただくということでもよろしいのではないかと思いますので。それではまず子育て・教育というあたりでめざすべき姿ということで、委員の皆様、お考えおありでしたらぜひご発言いただきたいと思っています。それでは濫谷委員お願いしてもよろしいでしょうか。

◎濫谷委員

濫谷でございます。前回、発言した内容と重複してくると思うのですが、特にこども・子育ての分野では、前回私が発言したのは、一つは地域がキーワードになると。ただ、地域はこども・子育てに特化したものではなくて、よく言う誰一人取り残さないとか、孤立をしていない、特に孤立というのはかなり幸福度みたいなものと深く関連しているようなものですので、こどもも含めて誰かと繋がっているとか、何かあったときに繋がれるような地域づくりというのが、こどもや福祉全体で共通のキーワードかなと思っています。

今回、基本的には今まで大田区が積み重ねてきた計画を、福祉の場合はきちんと今後も継続していくことがベースになるとは思っているのですが、あえて次の20年くらいを見据えながら考えるときには、「こども」をキーワードにする、子育てではなくてこどもをキーワードにするというのは、ぜひご検討いただければと思っています。それはおそらく全体会でも、こどもが20年後に見たときに大田区がどうなっているのかということが、今回の構想の中では1つ大きな着眼点になるのではないかと出たところが出ておりましたので、その意味ではこどもだけ取り出すということについてはいろいろな意見があるかと思いますが、基本構想としては1つ大きなキーワードになるのかなと思っています。大田区固有というわけではないのですが、「子どもの声を大切に、子どもたちの生きる権利や育つ権利が尊重されたまち」ということを1つ参考例として出しておりますが、このあたりのところは、私はすごく共感するところであると述べさせていただきたいと思っています。

◎石渡部会長

濫谷委員ありがとうございました。濫谷委員は「子育て」ではなくて、「こども」ということで、むしろこどもの主体性のようなところを大事にしていくというお考えでしょうか。

◎濫谷委員

そうですね。今までの構想の中で、こどもを育てるということで主体が大人であるとか社会が想定された構想だったので、そのあたりをどういった文言にするのかというのはいろいろ案があるかと思うのですが、やはりこどもが育っていく、よく言う「子育て」とかというようなキーワード、あるいは

は「こども」がキーワードになるかなというのが私の意見です。

◎石渡部会長

大事なご指摘をありがとうございます。私もこどもが主役的な表現をと、個人的にはお聞きして思った次第ですが、それから今の社会問題で孤立・孤独といったようなところから、誰かと繋がっていか、その繋がりの基盤としての地域という観点のご指摘をいただきました。他にどなたかいらっしゃいますか。

◎中島委員

ただいまの意見はごもっともでございますけれども、やはり教育というのは、家庭教育だとか学校教育だとか社会教育というのが3本立てだと思っているのですが、やはり三位一体になってやらなければ、こどもの本当の教育ということにならないと思います。あくまでもこどもが安全や安心が保障される教育でなければなりませんので。

具体的に申し上げますと、各組織それぞれが話し合いの場とか、そういうものをちゃんと持ちながら役割分担を担っていくということの大切さを考えております。これは実践に入るということで私は申し上げておりますが、非常に理想的な論理を申し上げますと、確かに三位一体の教育は理想なのですが、なかなかその域に達していないということが現状でございますので、それをどうやって掘り下げながら話し合っ、一緒にやらなければ片方、一方的にやってもこどもの教育はうまくいかないと思います。以上です。

◎石渡部会長

教育の中でも学校教育、家庭教育、社会教育が三位一体で話し合いを十分に持って連携して、というあたりのところをご指摘いただきました。ありがとうございます。

◎押見委員

区議会から来ました押見隆太です。よろしくお願ひいたします。先ほど濫谷委員などから、「子育て」というよりも「こども」というご意見をいただきましたけど、私もそれはもっともだと思いますけれども、一方で教育の方でも言葉を並べていく中で、教育＝こどもというわけではないのですけれども、やはり「子育て」というような文言で挙げていくことも非常に重要なことと思っております、「こども」だけではなくて。

その中でも、前の区長も今の区長も言っている「子育て世帯から選ばれるまち」、これは前もお話ししましたけれども議会マターで発信された言葉で、議会でも相当熱く議論がなされていたことなので、私としては基本的には「誰もが安心してこどもを生き育てることができ、子育て世帯から選ばれるまち」というのがいいと思います。だからそこに、その文章プラス、ちょっと長くなるのですけれども、こどものことを付け加えるような文章もできるのかなと今考えているところでございます。以上です。

◎石渡部会長

押見委員ありがとうございます。これまで大田区が大事にしていた「子育て世代から選ばれるまち」というようなところをポイントに置いたときに、「子育て」というようなところをキーワードにするということでしょうか。

◎押見委員

ありがとうございます。今、部会長がおっしゃるとおりでございますし、また、こういったデータ分析をしている中でも、子育て世帯の流出、前回の議論の中でほとんどの方がこの件が非常に重要な問題であるとおっしゃっている中で、やはり「こども」ということも重要なのですけれども、「子育て」ということをまずは私としては前に押し出したい、もちろんこどもを押し出したいところもあるのですけれども、というような形でございます。

◎石渡部会長

ありがとうございます。他にどうぞ。

◎大井委員

大井です。こども・子育ての分野に関しては、データで子育て世代が大田区から出て行ってしまふ、そのトップの理由が、お家の面積ですとか、家賃というものがあつたのですけれども、やはりもちろん生活の中で経済的なことはあると思うのですが、コストパフォーマンス以外にそこでしかできない経験ができるということがあれば、こどもをそこで育てたいと思うはずだと思います。大田区は文化的なものもありますし、空港があつたり自然があつたり、産業も豊かなまちで、わざわざ出て行って教育のために何かしなくても、地域でこどもを育てる、地域の資源でこどもを育てていくことができると思うので。

学校教育も新しい教科ができて、新しくトライアルして行ってこれから変わりますよといったときに、もうちょっと地域の資源と子育て世代の連結性というかコネクションができると、やはり安心はどこかと繋がっていて安心ということもあると思うので、安心して遊べる場所がもっといっぱいあるということを発見してもらうことで、資源というものも活かしながら安全だけではなく安心に繋げていけるような、大田区がずっと大事にしていた地域力ということも、これから長い目で、また違った視点で活かしていくべきではないかなと思います。

◎石渡部会長

ありがとうございます。大田区にいるからこそ体験できる学びとか得られるものというあたりをバンと出して、地域力と子育てというあたりをうまく繋がれたら、流出などはないのではないかといいことですね。ありがとうございます。それでは岡元委員、ご発言お願いいたします。

◎岡元委員

岡元です。今日はオンライン参加でよろしくお願ひいたします。ワードクラウドで見る限りでは、今お話が出ていたとおり、「こども」、「子育て」というところが共通しているかと思いますが、小中学生も「こども」という言葉が出てきています。そういう意味では、しっかりこどもの視点を活かし

ていくことが重要だと思います。

その上でいま押見委員からもありましたけれども、転出超過が2022年だけではなくて5年間も23区でワーストワンだったというショッキングなデータになりました。この部分に関しても冷静に分析しなければならないと思います。今お話もありましたが、住宅面積・間取りは、価格・家賃と連動する話だと思うのですが、それ以外で転入者のアンケートを取っていないので、大田区についてこんなことが大田区の魅力として大田区を選びましたという方の声があると、それも参考にしなければいけませんが、単純に転出理由・転出先の自治体について挙げている中には、まだまだ大田区が取り組むことで改善が見込めることもたくさんあるかと思っています。

その中で周辺の自然環境で公園を含むというのがありますが、子どもたちのワードクラウドの中で一番大きいのが公園ということなので、こんなところも子どもたちの声がきちんと形として反映できるような施策が進んでいったらいいかなと思っています。子どもたちの要望や声が形になる、目に見える形で変わっていくということは、大田区を子どもたちが信頼してくれることに繋がると思いますし、自分たちが考える、またそれを声に出すということの重要性、自治意識みたいなものも養われると思いますし、大田区に住み続けていこう、大田区に希望を持ってもらえるような形になるかと思っていますので、そんなところが子どもの目線をしっかりと表せるような形になったらと良いかなと思っています。よろしくお願いします。

◎石渡部会長

岡元委員ありがとうございました。転出者の声はあるけれども、転入者の声がないというあたり、もしこの辺で情報が何かで得られれば提供していただけたらと思いましたが、子どもの声を大事にということで公園とか、子どもたちが増やしたいと言っているあたりを、どう今後に取り組んでいけるかというご指摘、ありがとうございます。

◎庄嶋委員

区議会議員の庄嶋でございます。今、人口の流出の話が出ましたけれども、今日ご提供いただいた追加データの中の特別区の転出入状況を見たときに、大田区は純減というか出ている方の数の多さではワーストワンが5年間続いているということなのですが、よくよく見ると出ている絶対数で見ると、やはり人口の一番多い世田谷が一番多く出ていて、次に練馬が出ていて大田区という感じで、人口の規模の1、2、3位のところが出ている数が多いと。ただ、世田谷、練馬と少し違うのは、世田谷、練馬はそれなりに人が入ってきているけれども、0～4歳、子育て世代も含めて入ってきているのですけれども、大田区は入ってくる方が少ないということですね。やはり、なぜ選ばれないのだろうというところ、ここはやはりしっかりと分析する必要があると、何か足りないものがあると思えばそこを伸ばしていくことが、エビデンス的には必要かなと思っています。

それから最初に澁谷委員が指摘してくださった子どもというのは、私もすごく大事なことだと思っていて、便宜的に子育てと教育に分けることは一つの考え方なのでこれでいいとは思いますが、そこに子どもというのを主体的に捉えていく視点が、今まで以上に必要になっているのかなと思います。国の方でも子ども基本法ができて、子どもの権利というところを尊重していく動きというのが出てきておまして。大田区でも以前から「地域とつくる支援の輪プロジェクト」と

いうこどもの生活応援の関係の施策の中で、「こども1000人アンケート」とか、そういったものも取ってきたりしている中で、こどもの声をしっかりと聞いていきたいと思いますということは、これまでも大田区で取組がなされてきていたのですけれども。先ほど岡元委員も言われたように、こどもにとって関心が高い公共分野・公共施設が公園だということが先ほどのワードクラウドでも表れていて、自分たちが日頃接しているものに対して、もっと意見を言っていきたいとか、そういう意味でも、区政への参加とか、そういったところにこどもの参加をより増やしていくことは、方向性として今後必要になってくるのかなと思います。

また、教育の面で言いますと、デジタル化が進んでいく中で、今日の例にも挙がっていますけれども、個別最適化ということがあって、よく最近例として挙げられますけれども、算数とか数学に関して、ある問題を解いたときに正解すれば、より難しい問題が次に提示される。間違った場合はもう一度同じくらいの問題が出されて、それも間違った場合にはこの辺が分かっていないということで、遡ってもう少し前の問題が出されるというように、出題するのはコンピュータ、AIなどの力を使って、先生は教える、出題するというよりも、こどもを励ましなが、ファシリテーター的な役割に先生が変わっていくと言ったりしますけれども、そういう中でこどもを大事にする教育、一人ひとりのこどもを大事にする教育という方向にデジタル化の動きを含めてあるので、便宜的には「子育て」、「教育」でいいと思うのですけれども、「こども」ということをより中心に据えたものの考え方で、2040年に向けて打ち出していく必要があるかなというのは、皆様のご意見をうかがっていて思ったところです。

◎石渡部会長

庄嶋委員、いろいろと大事なご指摘をありがとうございました。こどもを主体にという視点を大事にしつつ、領域としては子育て、教育でいいのではないかとことですね。デジタル化での一人ひとりに応じた教育というあたりも、本当に大事なところをご指摘いただきました。西脇委員どうぞ。

◎西脇委員

他の委員の方々のご意見を聞いておりました、それぞれそのとおりだなと思って聞いていたのですけれども、資料3の7ページのところに例として文言を挙げていただいて、「子育て世帯から選ばれるまち」というのは、端的で正直いいかなと思いました。ここに書いてある文言から、ただちに目標数とかKPIとかを決めていくのかどうかまで、まだ理解していないのですけれども、指標として数字で出てくることなので、もしそこがターゲットなのであれば、非常に分かりやすい言葉だなと思いました。

もう一つ追加で入れてほしいとすると、未来づくりの教育も始まりますし、未来に向けた何かポジティブな要素があるといいかなという観点からは、3ポツにある「子どもが未来に希望を持てる」ということも非常に大事なのかなということで、もしポジティブな要素ということであれば、このあたりの文言が個人的にはいいかなと思います。これから大田区がやろうとしている未来づくりにも繋がりますし、個人的にはちょっといいかなと思ったところです。

◎石渡部会長

ありがとうございます。未来に希望というあたりは、私もとても大事だと思います。こういうわくわく感が持てる言葉をいっぱい盛り込んで、さあやるぞというような思いが、という気がします。子ども・子育てというあたりもいろいろとご意見いただきましたが、私もやはり20年後に大田区を担っていくであろう子どもたちが主役であるというところは、いろいろな言葉に打ち出せたらと思っています。

割と子ども・子育てのあたりについてご意見をいただきましたが、もし教育等について何かお気づきのことがあれば、ご発言いただけますか。

◎齋藤部長

事務局企画経営部長の齋藤です。先ほど自由意見のところでもワードクラウドで子どもと公園というワードがすごく多かったというご意見がございました。これについて、実はまちづくり・防災部会の中で、あそこは公園を所管しているものですから、こういう意見がありました。子どもたちが何を言っているかという、今の公園は非常に規制が多いと。何をやってはいけないという禁止事項ばかりなので、キャッチボールができないという声があったのです。それは我々としても真摯に受け止めまして、今の公園というのはいろいろと苦情があったり、いろいろな方が訪れるものですから、結果的にできないことが多いのですが、そういった声があるからには、例えばキャッチボールができる専用スペースとか専用公園とかがあった方がいいのではないかなという議論もありました。所管部局の課長も来ていましたので、そこはそういった声を受け止めさせていただいて、基本構想では理念とか大きな目標をつくるので、あまり細かいことを載せるわけにはいかないのですが、今後基本構想ができたのち、基本計画、それから実施計画ということで、このピラミッド構造ですね、一の基本構想をつくった後に基本計画、実施計画がありますので、こういった段階でそういった子どもたちの声などを反映できるところはやっていきたいと思っています。そういった話が、まちづくり・防災部会で出ましたので、ご参考までということです。

◎石渡部会長

ありがとうございます。とても納得できるご意見とこれからの方向性だと思いました。今のご説明等に関して、何かお考えがある委員の方はいらっしゃいますか。可能でしたら教育関連で何かあれば、さらにご意見いただけると。

◎庄嶋委員

先ほどデジタル化の話はしたのですが、デジタル化が進むからこそ同時に身体的な五感を使った体験ということがやっぱり重要で。先ほど大井委員も、そこでしかできない経験という言い方をされましたけれども、そういった学び、体験、大田区の資源というものを使って、海もあるし川もあるし大地部もあるし、そういったところでの様々な体験活動といったところを教育の中でもしっかりと取り入れていくことは大事なかなと思っています。

それこそ町工場がありまして、町工場の廃材・スクラップを使って工作するといった取組も今でもすでに始められている皆さんもいらっしゃったりして、そういったものに大田区の子どもは馴染

みやすい環境にあるだとか、そういったものを活かしながらクリエイティブな部分をさらに育てていく。非認知能力、テストなどでは測れないような力を育てていくことが言われていますが、それにはデジタルでいろいろなことを調べて情報を得ることにプラスして、得た情報をいろいろと試し模索していく方向性は、大田区に限らず、子どもにとってこれから大事だと思いますけれども、大田区ならではの資源をそこで使っていく。どうしてもこれから、人口的に、できれば増やしたいけど子どもの数は減って、人口も2040年ごろからは大田区でも減っていくかもしれないという中で、外国人の方も増えてくるという中で多文化体験ということも含めて、いろいろな体験を増やしていくことが教育の方向性として必要なと思っています。

◎石渡部会長

ありがとうございます。大井委員何か追加でご意見ございますか。

◎大井委員

私も先ほど庄嶋委員がおっしゃっていたデジタルの活用ということで、子どもたちがICTの活用ですとかSTEAM教育を始めて、どんどんその子たちが大きくなっていく過程で、それが学べたことで自分が生きやすくなったというような経験に繋がっていくと、よりいいのかなということで、先ほど岡元委員も子どもたちの意見が通ることで自治意識が通るということもおっしゃっていたのですが、おそらく小学校と中学校は地域にいて学校に通うことがすごく多くなると思うのですが、その子たちが大きくなってきたときに、中学校はある程度所得を持っている方々は公立ではなくて私立を選んで区の外で学ぶと。高校生になると区から出て学んでいくといったときに、長いスパンで子どもたちを育てるといふ地域の風潮がないと、せっかく小さい頃に育てていったものが、間もなく花になる前にちょっと小さくなってしまったりすると悲しいなと思うので。やはり子どもたちが学んできたスキルみたいなものが社会で実装して試せるような、今大田区はSDGsのデジタル推進都市に選ばれています、そこに選ばれている理由も子どもとリンクさせて、子どもたちの成長にも寄与できるような取組も入っていた方がいいと思っています。

◎石渡部会長

ありがとうございます。岡元委員ご発言お願いいたします。

◎岡元委員

先ほど夢とか元気とかポジティブな言葉が入った方がいいとおっしゃった委員さんのおっしゃるとおりで、教育と言うとどうしても幼児教育だとか、学校教育だとかというところで、子どもたちがより良く育つためにということを見ると、入れ方は難しいかと思うのですが、大田区の幼児教育や学校教育に先生方が関わりたいと思っていただけるような環境という角度も、実は必要かなと感じています。大田区で教員をやりたいと思っていただけるような大田区になったらいいかなと思います。どうしても子どもだけが主役というか、子どもに向けた形になりますけれども、そんなことも考えられたらいいかなと思います。以上です。

◎石渡部会長

大事なお指摘ありがとうございます。やはり子どもたちも夢や希望を持ち、大田区で教育に携わりたいという思いを持てるような教員、そのために何をしていけば良いのかというあたりはいろいろと提案をいただけたらと思います。

先ほど大井委員がおっしゃっていた小学校まではわりと大田区で学ぶけれども、そのあと他区へ出ていったり、私立に行くと大田区から出ていくような子どもたちが、どうやって地域と繋がっていくかというところで、先ほど中島委員がおっしゃっていた社会教育みたいなところが大田区での学びみたいなところですので、すごく大事になってくるのかなと改めて感じました。他に何かございますか。

◎庄嶋委員

最初の方でお話が出た孤独とか孤立とかという観点のところ、大田区でも昨年「フラットおおた」若者サポートセンターというものができて、若者たちがそこに居場所機能として大森駅の近くですけれど集まるようになっていて。一番のそこに来る理由というのが孤立・孤独ということを挙げているそうです。方向性として子ども・若者が孤立・孤独を抱えてしまいやすい社会の状況になっていて、それは抜本的に何かが変わらないことには、これからもそういう傾向が続くのだらうと思います。そうなったときに、家族だからこそ難しいような問題、例えば虐待なども家族だからこそ愛情みたいなものが逆の表現になってしまったり、強く干渉したりして虐待に繋がるということもありますので、家族だけではない力というのが必要かなというところで。

これから2040年という17年後なのですが、逆に今の基本構想ができた15年前から今までの変化を考えてみると、子ども食堂を初めとする居場所みたいなものが増えてきたわけです。それを大田区では地域力という言葉の中で取り入れてきたことがあると思うのですが、やはり地域の中の第三者の大人というか、いろいろな方が子どもに関わる。家族ではないからこそ、第三者だからこそ、ある意味中立的に、冷静に関われる。いろいろと話を聞いて感情的に返すのではなくて、なるほどねと受け止めてあげられるような場は、今後も増やしていく必要があるだろうと思うので、子育てにせよ教育にせよ、そういう意味での地域の方、第三者の大人との関わりを増やしていく場は必要だと思います。

先ほどフラットおおたという若者サポートセンターにも、地域の子ども食堂で気づいた方がフラットおおたという場所ができたから行ったらどうということ、地域と公的機関の連携がなされている部分もすでに出てきているので、その方向性は今後も変わらないのかなと思います。

◎石渡部会長

ありがとうございます。家族ではない地域の力をどう子育てや教育にというところは、本当に大事なところですね。他に何かこのことをという方はいらっしゃいますか。

◎齋藤部長

1点補足なのですが、先ほど転出者アンケートのところ、転入者のアンケートがないのかというお話がありましたが、実は今年のゴールデンウィーク明けから大田区に転入される方で母子健診を受ける方を対象にアンケートを行っておりまして、サンプル数がまだ少ないので、ある程度ま

とまった段階でお示しができると思うのですが、そういう取組はしております。従いまして、ある程度それで、どのような理由で転入しているのか分かるのかなと思います。そこは今後分析したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

◎石渡部会長

ありがとうございます。また情報を集積されたらお願いいたします。

私は障がい児教育が専門ですから、やはり一般の教育の場から今まではじき出されていたとか、それからやはり大田区の特徴として、羽田空港があるというあたりも考えると外国籍のお子さんとか、多様性の尊重、それから今、学校教育の中でも自分の性に違和感を覚えるというようなLGBTQなどということも話題になるので、多様性を認め合えるような教育というような部分を、私はぜひ入れていただきたいと思います。

そうしましたら、子育て、教育というあたりで大事なご意見をたくさんいただきましたので、事務局に整理していただくことをお願いして、それでは次の柱になります「高齢者／福祉／健康・スポーツ／人口・自治体経営・その他」というところも、この部会でご意見いただけたらということになるわけですが、まず「高齢者」「福祉」あたりのところから、あるいはこういうことをぜひ発言しておきたいという委員の方がいらっしゃれば、この分野で自由にご発言をいただければと思います。

◎中島委員

実は地域におりまして、空き家が非常に多くなっていることが現状でございまして。地域では町会会館というのがどこも存在しているのですが、それ以外に、ここに行けばみんなと話ができるだとか、ここに行けば相談ができるだとか、ここに行けば楽しくなるだとか、そういった高齢者に対して憩える場所、相談できる場所みたいなものを、空き家は勝手に個人が交渉して使用できるものではございませんので、行政の方からピックアップして、できれば1町会に1つくらいずつあれば理想でございしますが、できることからそういうものを活用できるように手配をいただくと、非常に助かるなどずっと考えておりました。

◎石渡部会長

ありがとうございます。多分、大田区の居住支援協議会のようなものが立ち上がっていて、空き家対策などを検討されていると思うのですが、私も空き家を見るたびに、お庭が素敵で素晴らしいお宅が空き家になっているなど思うことが多くて、中島委員がおっしゃったように高齢者が憩える場として使っていただけるような施策ができると、本当に安心して、落ち着いてという感じになると思いますので、空き家の活用というあたりを。ありがとうございます。どうぞ、西脇委員。

◎西脇委員

前回もお話したのですが、ひょっとすると人生100年時代になってくると、あまり高齢者だなんだって本当は分けない方がいいのかなと思ったりします。そうは言っても、膝や腰が痛くなってきたり、機能が低下してきたりということもありますから、こういう項目を設けること自体に反対ではないのですけれども。

少し思うのは年齢に関係なく社会の中で役割というか、もちろんお金をもらう仕事もあれば、もう少し年齢が上にいけばお金は稼がないかもしれないけれど、何か地域に貢献されるだとか、そういう居場所という言い方をしてもいいのかもしれないのですけれど、そういう社会っていいのだらうかと最近特に思っておりますので、そんなことが伝わる文言がうまく思い浮かばないのですけれども、そんなことを思います。

◎石渡部会長

先ほど憩える場ということで中島委員がおっしゃってくださったのですが、憩える場所にプラスして役割とか社会貢献みたいなことが位置づけられたら、より自分に肯定感というか誇りが持てて、人生100年時代も生き方が変わってくるだろうと思いますので。

役割というあたりで、よく福祉分野の話題になるのが、多世代間の交流というところで子どもと高齢者がという話が出てくるのですけど。ありがとうございます。どうぞ、大井委員。

◎大井委員

私も高齢者と分ける単語に違和感があるのですが、ただ社会というか会社を卒業してそのあとのセカンドライフということを考えてときに、「生きがいを感じてずっと住み続けることができる大田区」のような文脈で考えると、高齢者の方の健康寿命を延ばす方法として、教養が大事ですと言われていて。教養というのは、これから先どういふことがありますか、介護になったときにどういふ制度があるから自分で準備ができますよという知識の教養と、あと「今日用」、今日行く用がある人はいろいろなことをアクティブに行動できるようになるので、自分で選択しながらいろいろな人生を決めていくことができると言われています。

今、社会福祉協議会で成年後見制度の設備をすごく進めていらっしゃるかと思うのですが、そういうふういきちんと自分で選択するとなると、任意後見というものがあって、自分でもし何かができなくなったときに、自分でこうしたいということを予め決めておくことができる。誰かに何かをされるのではなく、自分でこうしたいという選んだ生き方を最終的には進めていくことができるという選択肢があるということも含めて、やはりいろいろ地域と関わったりすれば、行政のしくみなども勉強できると思いますし、生きがいとやりがいを感じて地域で最後まで「あ、大田区で良かったな」と感じていただけるようなしくみはつくれると思うので、高齢者というよりはもう少しポジティブな単語が入るといいなと思います。

◎石渡部会長

大事なご指摘をいろいろいただきました。高齢者という言葉そのものをポジティブに新しい言葉がないのかというご提案も含めたご意見でしょうか。

◎大井委員

よくセカンドライフだとか社会に貢献していくところで、セカンドライフも充実して過ごせるという単語を使ったりすると思うのですけれども、イメージ的に高齢者、要介護に繋がらずにいきいきと最後まで幸せに生き続けられますよというようなところができるといいかなと思っております。

◎石渡部会長

ありがとうございます。介護やセカンドライフという言葉が出てきましたが、用語としても何かびったりのものがあればと思いました。

◎押見委員

高齢者のところで言うと、高齢者の言葉の部分がありましたが、今やりがいという言葉も出ていますけれども、高齢者を入れるどうかというところはあると思いますが、「高齢者がやりがいを持ち、いきいきと健康に暮らせるまち」のような言葉がいいのかなと思いますね、皆さんの意見を聞いています。

◎石渡部会長

この辺は、どういう言葉を使うか大事なことだと思いますが、「やりがい」だとか「いきいき」だとか「健康」といったあたりがキーワードになってくるかと思います。岡元委員どうぞご発言お願いします。

◎岡元委員

ワードとしてはむしろ逆行した言い方で恐縮なのですが、大田区では「おいじたく」ということを進めています。自分自身の将来、どのように暮らしていくのか、最終的にはどのように、それこそご葬儀もしていくのか。そんなことまで考えていきましょうという制度なのですが、非常に皆様に好評でして、大田区は社会福祉協議会が中心になって相談会やセミナーもやっていただく、個別の相談会は弁護士や司法書士がそれぞれのご相談に合わせたこともやっていただいているのです。とても素晴らしい制度だと思っています。一人ひとりが自分の将来をきちんと意識して年を重ねていけるという形をもっともっと進めていけたらいいかなと思っています。以上です。

◎石渡部会長

ありがとうございます。実は昨日、この部屋で成年後見制度に関する会議があって、私も参加したのですが、そこで任意後見のことなどもずいぶん出ましたし、おいじたくのことに关しては前の松原区長が提案してくださったということなのですが、本当に大田区独自の前向きな関わり方ということで、とても注目されています。岡元委員どうもありがとうございます。ぜひこういうものをさらに進めていけたらということで、私もおいじたくというものは、それこそいきいき、自分の意思でということ象徴しているやり方だなと思いました。

◎中島委員

今まさにおいじたくということ私を私しているところでございます。90半ばですので、おいじたくもしなければというところでして。自分がこの世からいなくなるという死に対する恐怖というものは持っていないのですが、誰も生まれたら死んでいくという定めがございますから、そういうものはないのですが、病気をしたり痛みが発生したりすることだけはすごく嫌です。つらい思いを

しながらあの世に行くことは嫌だから、そういう意味でできれば死ぬまで健康でいたい、コロッと逝きたいとそうように考えております。

老いじたく、終活をしていく中で一番感じる事としては、自分が亡くなった後に家族に迷惑をかけないということが第一条件でございますので、身辺整理をやるわけでございますけれども、長く生きておりますと嫌というほど着るものやら何やら、捨ててもいいものが残っているのですが、生きてると捨てられない。どういうわけか捨てられないです。そういうことを始末してもらうのは大変だなと思っていますけれど、どうせこれは全部いらぬというものは、生前にきちっと家族に伝えておく必要があると思います。自分の意思をある程度家族に伝えることを大事にしなければなりません。そうしませんと、残された者はどうしようかと迷うことがありますので、ときばきと整理ができるようにある程度生前に計画を立てて伝えておくことが大事かと思って、まさに今それをやっておりますけれども。病院のことやら自分の葬儀の段取りやら、何でもすっかりやっております、戒名まで決めてありまして、赤でもって記されておりますからそれを消してくださいと言っております。

生きていううちに自分でできることを自分でやっておきたいということです。縁起が悪いわけでもなんでもない、安心してかえっていられるという現状でございますけれども、いくつまで生きられるか分かりませんが、本当に安心ですね。元気であるからできるのですが、これですっかり具合でも悪くなると何もできなくなる。転んだら、怪我したら寝付くとそのまま寝付いてしまいますから。そういうことを考えたときに、健康で元気であるうちに、自分の身の振り方みたいなものをメモでもなんでもいいのですから残しておいて、家族にはあまり心配かけさせないということを今やっております。できましたらお見せしますね。以上です。

◎石渡部会長

私たちが続きたいなと思えるモデルがいらっしゃるのは、本当にありがたいことだと思います。家族に迷惑をかけないということの中島委員がおっしゃったのですけれども、昨日の会議の中でも大田区は単身高齢者が非常に増えているということが、どう地域と繋がっていくかということが大事かなと思うのですが。また、大田区はすごく在宅医療というところで、医療関係者がそれぞれのお宅を訪問して、それぞれの生き方を尊重してくださっていることもすごく感じるのですが、医療との関係当たりで。

◎西脇委員

私は臨床医ではないので、在宅医療のことは分からないのですが、大田区で進んでいるのか、その数字は把握していません。

◎石渡部会長

そこに拘らずとも西脇委員のお立場で何かご発言いただければ。

◎西脇委員

そういう意味では、国全体でもそうだと思うのですが、もちろん病院を希望される方も世の中

にはおられると思うのですが、それぞれが望む形で医療を受けられたり、老いじたくという言葉がありましたけれども、人生の最期を迎えるということを選択できるということは素晴らしいと思います。すみません、大田区で現状どうかという数字を把握していないので分かりませんが、部長がおっしゃるように、そういう選択肢が多いということは素晴らしいことだだと思います。

◎石渡部会長

ありがとうございます。他にも課題があると思います。どうぞ。

◎庄嶋委員

高齢者という言い方が適切かどうかみたいな話も先ほどありましたが、私は今49歳で2040年頃、17年後で足すと66歳になっていて、いわゆる今の基準で言う高齢者になるので、ある意味等身大のテーマが、2040年を考えるとときには、実は高齢者っていうのはすごく等身大のテーマになるのですね。やっぱり人口の構成からしてこどもよりも高齢者が多い社会にその時点になっていて、私も団塊ジュニアなので人口ボリューム帯として一番大田区では大きいところなのですが、それが高齢者になりますから。となると先ほどから皆さんから出ている役割というのは自ずと多分担わざるを得ないというか、いろいろな役割を持たざるを得ないという部分があると思うのですね。仕事をずっとやり続けるということも含め、地域活動とかもやって、先ほどのこどものテーマの時に話した、こどもに関わる大人が多くいるといいなという話のまさにその大人の側に我々がその時点になっていて、こどもたち、数は少なくなっているかもしれないけど、そのこどもたちを大事に地域で育てていっていきの役割を果たすのが我々なのかなということちょっと想像したりしているところです。

そういう中で先ほども中島委員からもお話だった場所はやはりすごく重要だなと思っていました。場所があるかどうかでいろいろな活動ができる、できないということがあります。もちろん公共施設の中に集いの場所とか活動の場所があることも大事なのですが、公共施設も今、統廃合や複合化を図ったりして、数自体はメンテナンスにお金もかかるので減らしていつているところがあるのですが、地域の町会会館だとか、最近だと商店街の中のレンタルスペースとか、子ども食堂をやっている方が日頃使っている場所を空いているときは貸すとか。そういう感じで結構場所のシェアみたいなことが今増えつつあって。そういう場があることで公共施設にサービスを受けに行くという話ではなくて、そこに集い自分たちがそこで何かを地域のためにやるとか、こどものためにやる、あるいはこどもと一緒にやるとか。そういう意味で場をどう増やしていくか、それを増やす地域の側が主体的にやるところに区が何らかの応援をするのかというのはあるにしても、とにかく場は非常に重要かなと思っています。

高齢者に限らず福祉全般について、障がい者の話もそうですけど、前回もちらっと申し上げましたが、こういう未来のことを考える場合には一つの掛け算だと思っていて、福祉×イノベーションということで技術の力で障がい者の方が社会参加を、仕事だとか地域参加とかをよりしやすくなる状況をつくっていくというのは今後の方向性としてあるので、大田区が羽田イノベーションシティなどで先端技術に力を入れようとしている、またこの間も言いましたけど町工場の技術もある。そういったところがうまく活用されることで福祉的な課題にも対処しているような大田区。みんな

が参加しやすい地域社会になっているという状況をつくっていくことはすごく大事なかなと思っています。

◎石渡部会長

ありがとうございました。場の問題と掛け算という発想はすごく大事なことだと思います。それで福祉イノベーションですけど、例えばそのこどもとか教育とかいろいろなところの掛け算ができて大田区らしさみたいなものが生まれてくるのかなと思いました。ありがとうございます。

◎澁谷委員

私も似たような意見なのですが、繋がりのところはすごく大事なかなと思っています。お話をうかがっていてあるエピソードを思い出したのですけれども、災害とか台風が来たときに外出しないでくださいというアナウンスが流れているときでも、お店のところは高齢の方がいつもと同じようにいらしている。危ないよと言っても来ると。それって何でなんだろうなという、先ほど単身高齢者の話がありましたけれど、家の中で危ないと言われている中で一人にいるよりも、いつも行き慣れたお店に行って、そこでお話ができることが実はご本人にとっては「危ないよ」と言われても安心だったりするというエピソードを思い出したのですね。庄嶋委員が言われたみたいいろいろな居場所をつくるというのも大事なのですけれども、他の部会で多分扱っているところだと思うのですけれども、商店街が元気になるというのも一つやっぱり大事な着眼点かなと思います。そのあたりのところもまた他の部会の意見も聞きながら、福祉は本当に日々の生活を安心して送るためのまちづくりの資源というのを広く考えることも必要なのかなというのはお話をうかがって思いました。

◎石渡部会長

大事なご指摘ありがとうございます。商店街というのはやっぱり大田区の中ではいろいろあるのですよね。やっぱりそのところが居場所になっていくというのは、身近な場であるだけにすごく大事なことだと思います。ありがとうございます。

それでは福祉あたりまでだいぶ出てきたようで、次の健康・スポーツというあたりでまたご意見いただけたらと思いますが、お願いいたします。

◎西脇委員

健康に関してなのですけれども、なかなか状況は日本全体で厳しいなど、正直に思っているところで。「健康日本21(第二次)」が行われていましたけれども、歩数を増やそうとお題目を立てて10年やったけど、結局歩数は増えていないですね、日本人全体として。日本人は塩をものすごく摂っている国民です。減塩が進んでいるかという全然進んでいません。それから今できる最大の予防行動は何かというタバコを吸わないことなのですけれども、喫煙率は昔に比べればやっとながって下ってきましたけれど、それでもまだ3割近くあるというようなことを考えると、私が言っているのはいけませんが、なかなか健康づくりは難しいと正直思っているところです。今、大きく2つやらなきゃいけないと思っているのは、なかなか大人に健康教育をしても、もう言うことを聞いてくれ

ません。だからターゲットはやっぱり子どもなのだろうと、子どもにしっかりそこを教育していくことが必要なのだろうというのが1点。

それから、この言葉はいろいろ賛否両論であるのですが、0次予防という言葉があります。自然と健康になるような環境が大事ですよという言葉なのですね。なかなか言うはやすしで難しいことは承知の上で申し上げますと、移動手段として自然に歩かないと場所にたどり着けないとか、あるいは歩こうと思ったときに公園が整備されている、自転車を漕ごうと思ったときに自転車道が整備されている。言うは易くてももちろんお金がものすごくかかりますから、一朝一夕にはできないと思うのですが、自治体としてその視点を忘れてはいけないのだろうと。要するに、健康になるための仕掛け、環境を整備するということを、もちろん予算に限りはある中ですが、継続的にやっていかなければならないと常に最近感じているところです。

◎石渡部会長

私は日頃なかなか聞けない話をとても説得力を持って聞かせていただいたと思います。歩くこと、減塩、タバコみたいなことは反している人がいっぱい思い浮かんだりするのですが。

◎西脇委員

日本全体の問題です。

◎石渡部会長

ありがとうございます。子どもからの健康教育と、それから健康になるためのきっかけ作りですね。大掛かりなことではなくて本当に身近なところだという今のお話だったかなと思うのです。ありがとうございます。

◎中島委員

長生きをしている者の経験で申し上げますとね、本当に病気をしたことがないのですよ、バカじゃないかと思うくらい、本当に風邪もあまり引きませんし。何でかと自分で考えるのですが、親からももらったものもあるでしょうね、もちろんね。でも一番考えられるのは子どもの頃から活発で運動好きでした。陸上は早かったですよ。競り負けないくらいで走りました、小学校・幼稚園の頃からですね。それから自転車に乗らないでよく歩くということですね。自転車に乗ってはいけないと、東京に来てから言われたから、全然自転車に乗らないのですけれども、どこでも歩きます。健脚でいられるということは長生きに続くのかなと、今思えばですよ、そういうことを考えております。本当に病気をしないで今まで来ました。風邪とか、そういうものもあまり引きませんしね。何がどうなのか自分でも分からない、たまたま健康でいたということだけでね。強いて言えば若いときから活発で、よくスポーツをしていたということが要因になるかなと思いますね。以上です。

◎石渡部会長

ありがとうございます。今の中島委員のお話とさっきの西脇委員のお話はそれこそまたかけ算すると、健康教育というのは知識としての教育も必要でしょうし、健康体でいられるような運動と

か体を動かす生活習慣みたいなものですかね、そういうものもやっぱりこどもの頃から、ということがとても大事なのかなと今中島委員のお話を聞いていて思いました。そうするとやっぱり最初のこどものところで公園とかこどもたちがすごく大事にしていたところとどうドッキングさせるかも、すごく大事になってくるかなと思いましたが。いろいろな発想をいただきました。ありがとうございます。健康・スポーツ関連で他に何かご意見おありの委員の方いらっしゃいますか。

それでは次に、「人口・自治体経営・その他」というあたりがあって、これはなかなか議論しにくいかなという気もしますが、何かお気づきのことがあれば。やっぱりこれから人口減は避けられないところですし、生産年齢人口が減っていくみたいなのところがとても危惧されているので、私たち高齢者がいかに元気でいて、働くことも含めて社会参加できる地域であるかというのは、いつも大事だと思っているので。元気でいられ続けてこれをやっているのだというような、先ほどセカンドライフという言葉が大井委員が言ってくださいましたけど、セカンドライフとしてこういう道がリアルなあともあるよ、みたいな選択肢がいろいろできるといいなと漠然と感じつつ模索をしている立場でもあります。

人口、自治体経営、なかなかこのあたりは抽象的という気がするのですが。大井委員お願いします。

◎大井委員

自治体経営に関連して、人口もそうなのですが、先ほどから子育てですとか高齢者のこととかいろいろお話をしてきたのですが。大田区はやはり面積が広いので、六郷地域とか羽田地域とか調布地域とか大森・蒲田とか、区内の中でもやはりいろいろな住民属性とか、抱えている問題の違いがすごくあって。それを全部大田区が一本化して子育てドン、高齢者ドンと実施するのはちょっとハードルが高いというか、多分障がい物が多いと思うのですね。そう考えたときに地域単位でミニ自治体とは言わないのですけれども、やはり子育ても高齢者も地域ですと考えると、普段から地域で顔を合わせている人たちが力を寄せ合って、住民自治とか区民活動とか、そこにもう一歩行政が乗ってくる、ではないですけど。なかなか土日に区役所に行けない方がいるとか、そういうことを考えたときに、出張所単位ではないのですが、今地域包括と出張所の単位が地域ごとにちょっとずつずれて使いにくいという意見があるということも聞いているのですが。やはりその地元の地域体というものを上手に使って、そこに対して行政が丁寧に、いろいろな課が関わらなくてはいけなくなってしまうと思うのですけれども、そういうところで地域の絆とか繋がりができていけば、おそらく高齢者が元気になったときも、もし高齢が進んで動けなくなったときも、お買い物のお手伝いをしてもらえたりとか、もしくは急に避難しなきゃいけなかったときに、やっぱり「あれ避難所にこの人来てないなら大丈夫かな」と、普段活動している人が気づいたりとか。もちろん避難所運営なんて地域で訓練とかされているのかもしれませんが住民としてはあまり感じてないときに、普段から一緒の人がみんな避難所にいたとすると、そこはやはりゼロイチではなく協力体制ですとか、若干顔見知りがあれば、チームワークを生かしてやっていけるということもできると思うので。いろいろなニーズがある中で、縦割り行政の中でもやはりその自治体の経営の仕方ということをその地域で考えた方がいいなというのが一つ。それと、やっぱり今デジタル化が進んできているので、わざわざ区に来なくても自宅から電子申請ができるとか、自宅からオンラ

インでアポを取れるとか。何かしらそういうものができる、わざわざ区役所に行けない人もちゃんと自治体のサービスを受けられますよという、その方法的なものも、もうちょっと縦割りの中でも方法に選択肢が増えていくと、時代に合わせたアップグレードができたらいいのではないかなと思います。

◎石渡部会長

ありがとうございました。大田区は地域特性が違って、出張所と地域包括の存在はすごく地域の人にとって頼りがいがある、何かあったらという組織になっているかなと思いますので。地域性みたいなところをうまく活用する。

それから今デジタル、これは本当に一瞬でいろいろなところと繋がっていったりするわけですので、そこら辺をうまく生かした自治体経営ということは、すごく身近なご意見で、そういうところがすごくこれから大事になってくるのだろうなと思いました。ありがとうございました。

◎中島委員

今の質問ですがもう実践しております。大田区の連合会がございまして、地区の連合会の会長18人が集まるのですが、目的は一つでいいのですね、健康についてという目的が一つあれば。要するに大田区は文化が三様であると区長がおっしゃるのですが、田園調布地区、大森地区と、ものづくりの六郷地区・蒲田地区のあの辺ですね、大きく分けて。それから羽田の方もありますけれども。大きく分けて3つか4つに分かれます。ですから、目的は一つであってもやり方、方法は違って構わない。違わなきゃおかしいでしょ。同じようにはできませんので。行政で目標だけ決めてくれれば、それぞれその目標にあったような体制を文化の違う地域でそれぞれ考えて実施にあたるということは、すでにもう走り出しております。まだ具体的にどれという発表はできませんけれども、そのうちにまとめて発表する段階がくると思いますので。

◎石渡部会長

どうぞ、庄嶋委員。

◎庄嶋委員

大井委員、中島委員の話に繋がる場所があるのですが、第1回の部会の時に強みとしてあげるべきだったのかもしれないのですが、やっぱり大田区は大森、調布、蒲田みたいにまず大きな地域があり、さらに18の特別出張所に分かれる。ある意味大田区内における地域単位をお互い意識しながら切磋琢磨して、地域を良くしていこうという気持ちがある。その良さは2040年頃も当然続けていきたいと思うのです。

ただ例えば時代の変化の中で、今だとその18の特別出張所の単位で、地域力推進地区委員会というものがあって、地域のいろいろな団体が集まって、情報共有や情報交換を図ったりしている部分があるのですが、今はまだそのどっちかという特別出張所が主導というか、特別出張所がいろいろお膳立てをしてやっている部分があるのですが、ひょっとすると時代がこう変わっていくと、より地域の方が主体にならないといけない時代になるのかもしれないなという

ころもあったりして。その辺がちょっと2040年頃、より地域の住民の側が主体性を持って地域を運営していくような状況になる。ただ都会なので、地方の場合はよりもうそういうふうになっていて、役所・役場の規模が小さくなっているの、地域の方が主体でいろいろとやらざるを得ないという状況ですけど。大田区もそういう状況になっていくのかという確信までは持てないのですが。

ただ行政がいろいろなサービスを提供していくというのと、先ほどから出ているやりがいとか生き甲斐というのは、やっぱり自分たちが主体的に関わるからこそ生まれてくるという面もあるので。先ほど言った3つの地域、18の地区、そういった中での切磋琢磨というのが、より住民主体の形で動いているような2040年頃かなと予想するところもあります。

◎石渡部会長

それぞれの地域性みたいなものが、切磋琢磨というお言葉を使われましたけど、それぞれが良い方向に向かい合ってみたいな。先ほど中島委員がおっしゃってくださった、目標は同じであってもたどり着く道順が違うみたいなところを大事にしていくのは、本当に20年後も、それはまた大田らしさだと思いました。

自治体経営、その他も含めて、ご意見がおありの委員の方、いらっしゃれば、いいでしょうかね。

それでは、とても大事な大田らしさが出て、20年後にとっても期待が持てるご意見をたくさんいただけたと思います。そうしましたら今まで課題別にこれからのめざす姿をいただいたのですが、次にその基本目標の構成について事務局からまずご説明をいただいでよろしいでしょうか。

◎野村課長

事務局から、最後の議題であります基本目標の構成について説明させていただきます。基本目標の構成ですね、基本目標の柱とも言える部分なのですが、まず資料の前に今の大田区の基本構想をスライドに映らせていただいておりますが、参考資料は2になります。今の大田区では基本目標として3つの基本目標を掲げております。基本目標1、2、3ですね。今後新たな基本構想の基本目標の柱の数につきましては、3つの専門部会の検討結果を踏まえ、事務局で検討してまいりますが、あまりに細分化してまいりますと基本計画の政策の柱のようになってしまいますので、現時点で基本目標の柱が何本かは決めていないものの、やはりバランスとしては3本から5本くらいが良いのではないかと考えております。基本目標の柱の構成につきまして、現時点での事務局の方向について説明させていただくのが本議題になります。

資料3の13ページ、こちらをご覧ください。現在の基本構想ではこども・福祉に関連する分野としましては、先ほど示した基本目標1「生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち」という一つの柱におおむね含まれた形となっております。この点についての現時点の事務局の考えですが、2040年頃をめざす基本構想を検討する上では、やはり将来の大田区を担うこどもたちにとって魅力的な将来像を描いていくことが重要であることだったり、また持続可能で活力のある町の実現のためには、0～4歳児の転出超過状況の改善に向けて、こどもを中心に据えた多角的な取組を進めていくことが重要であるといった理由などから、こどもを中心に据えた形で独立させた形で柱を設定し、子育ての視点のみならずこども自身が将来に希望を持って生きることができるよう

な、そういった将来像をめざすという、そういう区の姿勢を示すような形がいいのではないかと考えております。

その結果、他の分野につきましてはもう1つ柱を設定することになりますが、この際には子どもを重視するか・高齢者を重視するかの二者択一ではなく、双方にとって暮らしやすい大田区にすることを意識していきたいと考えております。

このように本専門部会から派生する基本目標の柱の数は、おおむね2本程度が妥当かと考えておりますが、この基本目標の柱の本数については、決して本日の会議で決定するものではないです。最終的には他の2部会の結果も踏まえまして、審議会の2回目に合わせる形で、事務局で案を作成いたしますが、その際に部会委員の皆様と大きく方向性がずれることのないよう、現時点のご意見をいただきたいと考えております。

こちらが、基本目標の柱の構成に関する説明でして、追加で1点。

◎齋藤部長

すみません。事務局企画経営部長齋藤でございます。皆さん方にちょっとお願いがございますが、私どもはSDGs未来都市にもなっていますので、そのところをすごく意識した取組を今後やっていくわけなのですが、SDGsの中で「すべての人に健康と福祉を」という目標3があります。この中でこれに非常に親和性があるワードとして「Well-being」があります。幸福とか福祉とか健康を指す言葉なのですが、これが今世界でかなり潮流になっておりまして、国でもこれについて閣議決定で経済財政運営の方針に盛り込まれているのですね。かなりこれが非常に注目されております。

SDGs自体は2030年为目标年次なのですが、2040年に至るステップとしてどこまで到達するのか。それからその先どうするのかという観点で、SDGsとWell-beingというのは、基本構想の中で欠かせないものだと考えております。

そんなこともありまして、非常に子ども・福祉部会と親和性が高いものですから、ここで話を出させていただいたわけでございまして、石渡部会長と渋谷委員が福祉の専門家でいらっしゃいますので、Well-beingについて何かご助言をいただければありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎石渡部会長

Well-beingなのですが、私が今まで自分がやってきたことを踏まえて、何をもちて幸せと思うかとか自分が納得しているかというのは、やっぱりご本人の意思とか思いみたいな言い方をしており、ご自身がこうあるのが自分にとってWell-beingになるのだという、本人の価値観とか意思を尊重しつつ、だからこの形がWell-beingという一般論みたいなものではなく、本当にそういう個別性みたいなものを、先ほどからも大田区では話題になっているかと思うのですが。個別の価値観とか生き方みたいなものを尊重しつつ、それが実現していくというのがWell-beingなのかと思っております。急に振られたので答えに困っている受験生みたいな感じがありますが。

◎渋谷委員

私もWell-beingについて知識が足りないかなと思うのですが、確かにご指摘のようにいろいろなところで指摘がされて幸福学とかというような言葉を当てながら、研究も進められている領域かなと思います。多分分野によって若干使い方が違うかと思いますが、福祉では人権保障とか自己実現というところがキーワードになるのですが、部会長が言われたように主観的幸福感というのはおそらく外せないところだろうかなと思います。ただそれに合わせていろいろなそのための条件づくりみたいなものも視野に入れて整備していくというのが、実際のWell-beingの推進には必要なものになってきますので、理念としてあげるには非常に包括的な用語かなと思います。

◎齋藤部長

ありがとうございました。今は基本目標の話をしていますが、今後その上に基本理念というのはやっぱり必要だと思っていますので、このWell-beingの考え方は福祉に限らず、ということも言えるかと思っていますので、そこら辺を参考にさせていただきながら整理したいと思っていますので、どうもありがとうございました。

◎野村課長

当初の議題の、基本目標の柱でご意見いただければと思いますので、資料を映しますので、部会長よろしく願いいたします。

◎石渡部会長

Well-beingというようなキーワードが出てきたあたりも皆様頭に入れつつ、まず柱ということでは、こどもというのを挙げていただいていますし、次に並んでいる高齢者、福祉、健康・スポーツみたいなものもひっくるめてWell-beingみたいな発想を事務局としてはお持ちだと考えているのですね。それでも矛盾はないし、むしろ前向きかなと私は思ったりもしましたが、Well-beingというキーワードが出てきたことを踏まえて、委員の皆様、いかがでしょうか。お願いします。

◎西脇委員

Well-beingは一種の流行り的なこともあって、我々の医学・保健の世界でも結構、ここ10年ぐらいですか、使われるようになっていきます。さっきWHOの健康の定義がここに出ていたかと思うのですが、よく医学生にも教える際に使うことなのですね。要するに健康は単に病気を予防する、病気にならなければいいということではなくて、精神的にも満たされているとか、社会的にも満たされている。そういうことが健康だと教えるのですが、そうすると、健康ということとWell-beingと何が違うのと言われたら、うまく説明できないというか、Well-beingという言葉をあえて使う必要があるかどうかちょっと何とも分からないのですが、ただ健康はやっぱりすごく大事なことではあるのですが、新しさが無いという点では、新しい言葉を使うという意味ではWell-beingを使うのも一つかなと。ただ、今までの健康と何が大きく違うのと言われると、僕らみたいな立場からするとそこまでの大きな違いはないという気がします。

何が言いたかったかという、まず柱の話なのですが、そういう意味では年齢に関係なく、さっきもちょっとお話ししたけど、「生涯にわたってWell-beingが達成されている」ことに収束

してしまうとそれだけで終わってしまうのではないかなという気がします。そういう意味では全部ひっくるめるのだったら、そういうのは少し広い言葉で1つの柱でもいいかと思うのですが、そこで当然子どもも含まれる。ただ多分「子ども」を1つの柱として分けようという意図の中には、大田区が特に子どもに力を入れるんだぞ、というアピールになると思います。おそらく大田区だけではなく他の自治体もそういうことを考えて子どもを前出し、横出しすることは多いかなと思いますけど。子どもを1つの柱にすることはアピールとしていいのではないかなと思います。もう1個の柱の方は世代にこだわらない、少し広い文言でくれるような柱を立てておけばいいのかなとちょっと今思うところです。

◎石渡部会長

とても的確に整理をしていただきました。柱立てのあたりでご意見おありの委員の方、お願いしたいと思いますけれど。やはり今までの議論から、「子ども」は一つバンッと打ち出すというのは皆さんよろしいのだと思うのですけれど。今事務局からWell-beingというような提案をいただいて、本当に年齢とかにかかわらず、生涯にわたってWell-beingを達成できるみたいな意味合いのことを今西脇委員におっしゃっていただいて、そのまとめで良かったでしょうか。ちょっと頭がついていけないようなところもありますが、そんな整理をしていくのも一つ方法かなと思いますが、委員の皆様、何かこのあたりで意見ございますか。

基本目標の構成というようなところでは、とりあえず今までの議論を踏まえて、「子ども」という一つの柱と、もう1本をまとめるとしたらWell-beingというような言葉でもよろしいですかね。というようなところに部会としても落ち着くかなと。

◎野村課長

先ほどWell-beingについて説明させていただきました。事務局の方からも、基本理念も、とありましたが、参考資料として基本構想を映させていただきます。今回ご確認させていただきかけたのは、やはりこれまで一つの柱だったものから子どもをどんと独立させる、その点について一番確認させていただきたくて。基本構想には現在の構成ですと、基本目標の前に将来像があり、さらにその前に基本理念もあるのですね。こういった視点も含めて、必ずしもここに位置づけるという限定ではないのですが、Well-beingにはこういう考えも大事なのではないかということで、必ずしも柱と連動させる形ではなくて、今せっかく専門的な知見を持ったいろいろなお立場の皆様が集まっていらっしゃるので、そこに関するお考えをうかがいたかった、そういったものでございますので。必ずしも柱の名称を、ということで限定されません。ただ、今いろいろなご意見をうかがいましたので、そういった選択肢も含めながら2つの柱をいろいろ検討してまいります。もしかしたらちょっとそこはまた違う次元で位置続ける可能性もありますので、その辺を一緒に説明してしまったので次元がちょっと分りにくくなったかもしれませんが、一番のメインの議題は2本柱とすること。Well-beingに関しては皆さんの率直なご意見をいただきましたかったので、それを踏まえて事務局でどういう形でどこにしっかり位置づけていったり、どこに考えを這わせるのかということは今後検討させていただきたいと思っておりますので。ありがとうございました。

◎石渡部会長

他の2つの専門部会でも、同じようにここが基本目標を立てるときの大事な柱とかキーワードみたいなものが出てくるわけですよ。で、また3部会を合わせて、となっていくわけですよ。

◎野村課長

おっしゃるとおりです。今こちらが最後の専門部会になりますので、例えば、今回我々の部会では今子どもを独立させるとしましたが、産業・環境では逆に1つの柱にしてはどうだろうかという意見もありましたし、まちづくり・防災では、やっぱり安全・安心の意見が強いので、そのあたりを前面に出した柱。そしてあちらではDX・地域力もあるのですが、ここは全体にかかるので、どこか特定の1つの柱というよりはもう少し全体に、という意見をいただきましたので、完全に確定というよりはそういうふうにそれぞれ1本だったり全体にかかるものという意見をいただきましたので、部会長がおっしゃったとおり、今この3つの部会の意見を全て総合的に判断しまして、最終的に事務局で柱の数であったりどういう分野を位置づけるか、一部は重複したりするものも出てくるかもしれませんが、それを判断して、第2回の審議会で上げさせていただく予定です。

◎石渡部会長

ありがとうございます。という流れにこれからなっていくところを踏まえて、何か委員の皆様、このことをちょっと発言しておきたいというようなご意見・お考え等あれば、最後のまとめるになりますけれども、どうぞ、庄嶋委員。

◎庄嶋委員

今の基本目標の構成に関する意見です。もう1個は、全体に関する補足意見になるのかもしれないです。

今、基本目標のレベルの話をしていて、子どもを特出しするということについては区民アンケートにも表れてきているように、我々の議論の中でもそうですが、そのことについては今の大田区が重視するという姿勢を示す意味でいいと思っています。

それで将来像というのが、今のこの基本構想のところで「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」というのがあって、基本構想も全部読んでいて当然それなりの分量になりますので、どこを見るかという一言ここを見て、我々のめざす大田区の姿というのはこれなのだということを、今まで我々としても共有しながらいろいろな取組を進めてきたという意味では、こういった将来像がやっぱりすごく何を設定するのが大事で。さらにこれキーワードってことで取り出すと、地域力、国際都市と、さらに短く言われたりするわけで。地域力、国際都市を旗印にしながらかれまで2008年の段階でつくった基本構想の実現に向けては、今までみんなそこに向かって動いてきたのかなというふうに思っています。

そういう意味で、最後キーワードに全体のキーワードになるようなものが何になるのかというのはすごく大事ななと思ってしまして。ちょっとそれはこれから考えていくところだと思うのですが、そこが実際に区民も一緒になって大田区の未来の姿ということで共有して、自分たちもそこに

向かって頑張ろうっていうときには、やっぱりキーワード、最終的には将来像に表されている言葉にちりばめられるものが大事ななと思っています。

先ほど子どもを特出しする場合は、ここに子どもに関わる要素も出てくるのか、どうなのか。それはまたこれから議論されると思いますが、とりあえず所感として述べておきたいと思っています。

◎石渡部会長

ありがとうございました。20年後にというのが、この部会の、それから構想を検討するスタートのところですから、将来像というのをどういうふうに描くかというのはとても大事です。地域力と国際都市が今までキーワードだったということで、多分それはこの後もきっと生き続けるのではないかと思ったりしました。

子どもがどんなふうに入るか、このあたりについて今庄嶋委員からご意見をいただきましたが、何かご発言がおありになる委員の方いらっしゃいますか。どうぞ、中島委員。

◎中島委員

やはり子どもを中心に据えた形の柱を検討するというのが一番かと思っています。将来を見据えた形ですので、安住できる魅力的な大田区が望ましいわけですけれども、子どもに特化するならば、子どもを中心に据えた、ということに重点を置いたらどうかと思っています。

◎石渡部会長

ありがとうございます。子どもを中心にという、確認した将来像みたいなものが、きっとこれからは希望が持てるといったことになるかと思いますが。

事務局の方で、特にこのあたりをというようなことがございますか。

◎野村課長

今、いろいろご意見をいただきましたので、事務局としてはこちらの提示した資料についてご議論を進めていただけたかと考えております。

将来像につきましては、おっしゃるとおり、まさにこの部会からすると、子どもというのは非常に今重要なワードとして独立させていただきましたが、やはり全ての3つの部会、最終的に何本柱になるか分かりませんが、それを全て統合した中で、一番バランスもあり、かつやはりインパクトだったり、目新しさも必要かと思っていますので、そのあたりのフレーズを、どういったものが魅力的に映るかという観点からしっかり検討して、第2回でお示しさせていただこうと考えておりますので、それが皆様からしたら、まだまだだということであれば第2回でしっかりご意見いただきまして、そこで決定というよりどんどん叩かせていただきまして、最終回まで、一番大事なところでございますので、またフレーズの案を固めていきたいと思っていますので、全体会でも今の意見も踏まえつつ、事務局に対していろいろご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎石渡部会長

ありがとうございました。第2回で皆様から議論して整理していただくところはかなりまとまってきたかと思いますが、今後に向けてこのことをぜひ発言しておきたいというような委員の方はいらっしゃるでしょうか。

そうでしたら、これで第2回の専門部会としては議論が終了してということで、進行は事務局にお返してよろしいでしょうか。委員の皆様、どうも本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

◎齋藤部長

石渡部会長、進行どうもありがとうございました。

それでは事務局から今後の予定についてご説明をさせていただきます。

3 今後の予定

◎野村課長

では、資料4で今後の予定について説明させていただきます。時間の都合により本会議内でご発言いただいていた意見がある場合は、会議後、本日中に事務局の方でメールで送付させていただきますので、その様式に記入する形で、期限が短く恐縮ではございますが、9月4日の月曜までに、事務局までメール等のご返信でご提出ください。

そういった追加のご意見も踏まえた上で、部会長にも相談の上、先ほどのフォーマットに落とし込む形で、事務局で本専門部会の意見を取りまとめてまいります。その後部員の皆様にご確認いただきまして、ご了承を得られましたら、それを部会の意見として第2回の審議会に上げていく、そういった流れを想定しております。

第2回の審議会につきましては、令和5年10月8日の14時から17時、場所は大田区役所の本庁舎5階会議室を予定しております。今後については以上となります。

◎齋藤部長

それでは全体を通じて何かございますか。よろしいですか。

それでは以上をもちまして第2回専門部会子ども・福祉部会を終了いたします。皆様お疲れ様でございました。

閉会

以上